Reference data

丸井　一郎 (2014) 交流様式と中間領域ードイツの都市コミュニケーション研究からー. In Reinelt, R.(eds.) Communication 2014. CAJcs, Matsuyama, 13 - 18.

相互行為様式と中間領域

ドイツの都市コミュニケーション研究の成果から

丸井一郎 （高知大学人文学部）

講演の概略

1. マンハイムドイツ語研究所研究プロジェクトの概略
2. 「交流様式」に関する成果の紹介
3. 外の視点から見て
   社会的背景など
4. 様々な含意

マンハイム・ドイツ語研究所

（日本の国立国語研究所に相当）

研究プロジェクト

「都市のコミュニケーション」

1981年～1995年

統括　ヴェルナー・カルマイアー

主たる研究員　インケン・カイム

ヨハネス・シュヴィタラ

成果：全4巻、総2315頁、論文15、モノグラフィー2巻

（1090DM、日本での売価約10万円）

その他単発論文多数

革新的な性格

1）言語研究者による精密で広範な都市生活のエスノグラフィー：とくに第2巻500ページ以上の記述

2）大規模なコーパス：中心地で、住民インタヴュー55件85時間、住民間の会話175件230時間、その他27件22時間の録音と転写テクスト

その他に4地区8集団

3）エスノグラフィーと会話分析の融合：アメリカ型会話分析の柔軟化（社会文化的相対化）と社会言語学への相互行為過程という視点の導入

成果

様々な言語表現と言語行為、談話類型、その実現の全レベルを通じて、包括的で統一的な形で言語行為の交流様式を提示した

副次的成果の一例

1980年代までに一般的だった女性の言語行為上の特性に関わる定型像を否定する観察

欧米の知識層の女性、とくに公共メディアの会話では、控えめで、競合せず相手を支え、相手に最後まで発言させるといった像が通用　vs 本研究は、発話の権利を奪い合い、他をさえぎり、激しく反論し、猥談を恐れない女性話者を描く

エピソード

理事会が何度か企画の中止を検討

John GumperzとWilliam Labovの肯定的評価で救われる

JG：1984年から毎年交流、1994に論文寄稿

WL：1987年に交流　きわめて好意的な評価

1988年理事会　最終猶予期間を認可

調査対象

旧市街下町地区

「手芸グループ」：ドイツ人労働者家庭の婦人達

（外国人居住者が住民の40%以上、不安定化）

新開地

「文学グループ」：教養市民層

「政治グループ」（政治・女性解放グループ）：

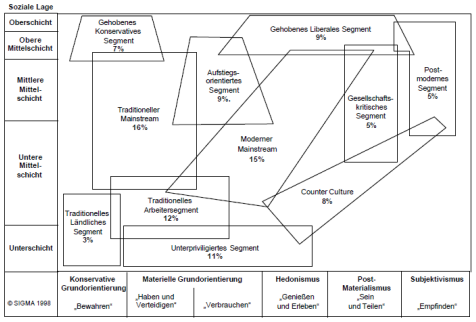
政党の下位団体、自立的労働者層の女性達

（大規模で、住民が不均質な郊外新開発地区）

3グループは伝統的な棲み分け生態に対応

現代西欧の生活世界類型（ミリュー）分布図

Abbildung 2 Transnationale Europäische Milieusegmente



Quelle: SIGMA 1998; Basis: Wohnbevölkerung ab 15 Jahren in Frankreich, Deutschland West, Großbritannien, Italien, Spanien, 10.000 Fälle at random 1997, gewichtetes Sample (Traditionelles Ländliches Segment nur in Italien und Spanien)

概念装置への一瞥
「交流世界」と「交流様式」

「交流世界」soziale Welten（social worlds）

「交流様式」kommunikative soziale Stile

（単数でder kommunikative soziale Stil）

交流世界はLebenswelt「生活世界」の一部であり、相互行為を通じてのみ形成される

sozial（social）は大規模の全体社会ではなく、ラテン語語源のsocietasに近く、「人々の集まり」

しかも見渡しのきく範囲の、という意味

交流様式の基本性格

交流様式は、人々を取り巻く生活世界の社会的、環境的、文化的、イデオロギー的な諸前提と諸条件との取り組み（適応、反抗、、）の中から形成され、交流世界の枠内で人々が直面する課題や問題をコミュニケーションを通じて解決することによって形づくられる。

・行為や表現の上位規定レベルを形成する

・全ての表現レベルの要因が均質に、中心的な論理に従って、統一的なゲシュタルトに結合される。

交流様式の性格　続き

・小集団で適用される。集団への帰属が固有様式の適用で表現され、他と峻別される。様式は社会的交流的な意味（＝仲間であること）を有する。

・相互行為と解釈の複合的なリソース。常にコンテクスト化の機能を有し、様式の変更は他との対比を通じて特定の解釈枠の再構成（再設定）に使用される。

・既成物ではなく、常に行為によって実現される。社会的、相互行為的に有意味な産物として形成され、必要に応じて状況や行為の要請に適応する。

会話資料の分析における着眼点

・愛好される話題、話題の選択、自分自身また他人について語る（噂話）
・提示のモダリティ（怒って、皮肉に、面白おかしく、など）
・談話の組み立て
（話者の交代、話者の役割、集団発話、聴取態度）
・同意と非同意の表現
・共同性の示威的な創出、紛争の解決と忌避
・意見対立時の論弁の役割

会話資料の分析における着眼点　続き

・関係調整行動
（呼びかけ、依頼と反応、批判、からかい、賞賛、慰め、同情と喜びの共有表現など）
・優先される行為類型
（争い・対立の物語、論弁的意見交換、共同の想像世界の提示、冗談など）
・社会的自己同一性の表現カテゴリー
（定型表現発話、言語上の変異、標準語と方言のコードスウィッチング、周辺住民のカテゴリー化）

「手芸グループ」の特徴

・怒り、不興、喜びなどの表現には直接性が優先される。
・好悪の感情を抑制せず表す。
・飾らない言い方、無遠慮な（粗野な）、極端な表現が愛好される。
・生活圏の狭隘さと相互抑制から個人領域が尊重され、交流上の規則への深刻な違反に対しても、間接的な批判の形式が発展している。

「手芸グループ」の特徴　続き

・批判には遊戯形式が好まれる。個人的問題は訴えではなく、冗談の形式で駆け引きされる。
・他の交流世界への象徴的な言及や他との関連での自己の位置づけ（「我々」対「上の」と「下の」連中）には、微細に差異づけられた表現システムがあり、その中で言語レベル（標準語対方言）やパラ言語・非言語による表現レベルが一定の役割を果たす。
・特定のジャンル（極端な、また猥雑な空想遊戯、様々なからかいの「きつい」形式、猥雑な冗談を一座で語り合う、噂話の拡張形）が意味を持つ。

「手芸グループ」の様式特徴　まとめ

1）　特定の社会的経済的な生活条件（空間的物質的限定、失業など貧窮化と飲酒など依存症による転落の危険）
2）　伝統的な労働者の社会文化的価値（強い地域社会的自己意識、率直さ、誠実さ、困窮者との連帯、「中身より見せかけだけ」や他人の親切心を悪用することへの非難など）
3）　当該の行為者の視点から周囲の生活世界が階層的に秩序づけられている

「政治グループ」（PG）と「文学グループ」（LG）の様式特性　対比

・PG：発話の権利（順番）は戦いとられる。LG：進んで譲り渡す。
・PG：自己自身の存在に関わる問題的な話題が許容される。LG：できない。
・PG：要請が通例の丁寧形式で表現されるが、直接表現も可能。LG：間接的に行われ、皮肉な表現のみ直接形式が可能。
・PG：批判が共通のイデオロギー的な同一性に関わるときには鋭く表現される。LG：ほとんど表明されない。ついロを滑らせたときには、すぐに撤回され、修復される。

PG・LG対比　２

・PG：賞賛はまれで主として（女性）解放の進展に限定される。LG：頻繁で強調され表現上の変異あり。

・PG：（病気の話などへの）共感の表明が有意味でない。LG：非常に大きな役割を果たす。

・PG：聴者信号、コメント、共同制作など聞き手の協調行動が少ない。（グロテスクな話を展開する場合は除く。）LG：聞き手の協調行動はきわだっている。

・PG：怒りなどの否定的感情はあまり抑制されない。共通の怒りは示威的に表明される。LG：より強く抑制される。

PG・LG対比　３

・PG：冗談でおもしろがる以外は、喜びなど肯定的な感情は表現されない。LG：（贈り物などに対して）情熱的に表明される。

・PG：言語的な審美性（言葉遊び、皮肉表現、パラドックスの表現）　が役割を持たない。無遠慮な（猥雑な）語彙がある程度使用される。LG：言葉の審美性は楽しみの対象である。粗野な語彙は全くない。

＜まとめ：指導的原則＞

PG：「我々は自分を押し通す」

LG：「我々は平静を保ち、美しいものを好み、互いに用心深く付き合う」

事例：いいとこどりのエゴイスト
下町の仁義に反する人物達が排除される1

例示テクスト２

26 HE: ‹die is bloß fer sisch haww=sch schunn gemergd

27 ZI:　　sie hod gs/

28 ZI: →ja ja　　‹←nu"r isch nur i"sch

29 HE　　n i"schmensch

26 HE あいつは自分だけで（勝手に）食べるんだそりゃ気がついてたよ

27 ZI　　あの女

28 ZI　そう　　自分だけ自分だけ

29 HE　　自分人間

事例：いいとこどりのエゴイスト
下町の仁義に反する人物達が排除される2

例示テクスト４

02: do mache mer mo e kaffekränzel↑isch schdifd dann / 03: gern en kuche net　↑ * warum net↑*←a:"ber der / 04: kuche wird verkaufd↑→un die wu fünf schdigger

05: fre"sse will↑* fünf marg in die kass↓gell↑* des　/ 06: is moi"n vorschlag↓

02:でまあコーヒーの会をするそんときゃあたしは/ 03:喜んでケーキを寄付する　当然だ　だけども/ 04:そのケーキは売ることになる　であいつが 5 個/ 05:喰らいたけりゃ 5 マルク料金箱へ　ね　それが/ 06:　わたしの提案

交流様式の機能

・小集団で発展し習熟し都市の他の場面にも適用される社会的同一性認定（＝どの集団の成員かを表す）のリソース

・領域確定の機能：自分たちの様式が広まれば様々な場面や出会いの場所がなじみのある環境となる

・権能（能力）を有することを表示し、確証された表現能力の象徴として機能する

・行動の真正さの象徴として機能する。（当該地域固有の住民であり当事者だという）真正さを象徴する性質において、様式は社会的資源をめぐる紛争への参加について非常に効果的である

様式の社会的意味

・住民は自己の文化を創造する作業を果たした

・社会文化的自立は政治的な潜在力（行政への発言権など）をも保証する

・その作業は、都市社会の諸関係の中で存立と通用性と貫徹力を獲得する努力と結びつく

・大きな苦労で獲得される地位や役割の相互適応は、当事者にとって社会的条件に適応し、交流世界に居場所を見つけたことを意味する

・それは誇りと自己評価の動因である

都市の地域的交流世界の性格と意味

家庭の個人的領域と匿名的な公共空間との中間レベルの組織であり、人々の都市環境への適応能力の発現である。

中間領域

家族関連（1次集団）<

任意の交流世界（2次集団、地域に固有）：特定目的を持つ自発的市民団体（3次集団、NPOなど）<

さらに大規模の様々な（半）公的組織の諸レベル（同業組合、財団、教団、企業、教育・研究機関、地域行政機構＜国家機構

25

マンハイムの事例への適用

個々の家庭から来る女性達は、相互行為を通じて固有の交流様式を示す「手芸グループ」という交流世界を形成・維持する

それは登録協会（e. V. = eingetragener Verein = NPO）の自発・自治・無償の活動に触発され支援されている

さらにそのNPOの活動は一部で市当局の援助を得ている

26

プロジェクトの成果と問題点

相互行為様式としての交流様式と生活世界（交流世界）における社会的同一性との相関を膨大かつ精密な分析によって示した

・内在的疑問：第1次集団（家族・家庭）および発達・社会化過程一般における相互行為上の特性と交流様式との関連は？

・局外者（我々）から見た問題：

相互行為様式（交流様式）と社会的自己同一性、小集団への帰属の関連づけがほぼ無前提に想定されている。それはどこから来るのか、どのような認識関心と結びつくのか？

27

素朴な疑問

日本の社会ではどうなっているのか

生活世界・交流世界の差異

棲み分け（ミリュー）

交流様式の差異

どれも不明確

職業上の諸要因（職種・地位）が重要

歴史的変化

ジェンダー関連

28

彼らの前提的理解の一要因

ドイツ人口**8200万のうち2340万人**（14歳以上）が**自発的社会活動**（成人では３人に１人）

生産活動として見るとGDPの数％（170億ユーロ、約2兆4千億円以上：2004）

登録された団体（eingetragener Verein= e.V.）

2001年：55万団体 → 2012年：60万

日本のNPO： 0.5万（01年） → 4万(12年)

ヴァルトキルヒ（2万人）240団体

ヘアスブルック（1.2万）150団体

問題：登録されていない任意団体の数？

スイス（人口820万、団体登録義務なし）

登録数7600、推定数15－20万（2014）

29

中間領域（サードセクター）の重要性

中間領域の意義： 職場と家庭のほかに共に生きる場所があるということ

仲間主義： ローカルな交流世界を形成

かの社会が全て「個人主義」で成り立つというのは幻想

ドイツ語圏では、上記フェライン（協会）など

自発・自治・無償を原理とする団体は、全体社会のコミュニケーション循環における重要な結び目

30

おまけ：都市とは何か

人口の多少に拘わらず一定の質と量で、政治的、経済的、社会文化的機能を果たす

人口2000人規模でも都市である

歴史的な来歴が明確

交流世界のネットワークが多重

そのための施設（集会場、酒場など）が十分にある（飲み屋の発生の仕組みが日本と異質）

全体として社会のコミュニケーション循環に規模・レベルを問わず貢献

問題の究極

社会的自己同一性と相関する交流様式：

ある程度意図的な他との対比を前提とする

通常性（＝形式的協調の成立、共有が前提）それ自体としての様式：より自覚が困難で、様々なレベルの集団間の比較で初めて認識可能となる

異社会文化間の相互理解

「彼ら」の自己理解は、その全ての前提を明示していない（できない）「全体的理解」であり、「我々」にとっての理解困難は、このあらかじめ理解された全体である。

ゴドリエの処方

人間の社会を対象とする研究の基礎

1．他者の社会的、歴史的他者性（＝異質性）は絶対的なものではない。それはつねに相対的なものであり、その事実により、ある条件のもとで解釈可能で、理解可能である。

2．彼らの周囲の世界とその世界のうちにある彼ら自身を解釈し、世界と彼ら自身に対して働きかけるために人間が作り出したものは、他の人間によって理解可能である。 大乗仏教であれ、（アボリジニーの）「夢の時代」であれ、マルクス主義であれ。そして必ずしもそれを実行しなくても、また当の思惟の形式に含まれる諸原則や諸前提を実践することを求められなくても、それを理解することができる。

（ゴドリエ2011:39-40『人類学の再構築』、明石書店）